

# 臥床したまま使用できる足浴器の作成

1 病棟 10 階東

小嶋麻衣子 岡野杏奈 小山智子 山下美由紀

## I. はじめに

血液疾患に対して化学療法や幹細胞移植の治療を受ける患者は、汎血球減少により好中球 0%と著しく免疫力の低下をきたす期間が 2~3 週間続く。看護師としては、易感染状態である患者への身体の清潔に対する介入は怠れない。しかし、このような状態にある患者は嘔気・発熱・全身倦怠感などの症状も併発していることが多いため、長時間の座位の保持ができず、入浴やシャワー浴が困難なことが多い。また、がん化学療法に伴う倦怠感の軽減に足浴は有効であるとの報告もあることから、患者に足浴を勧めるが、「足がたらいの淵に当たって痛い」「膝を屈曲したままでは苦痛」などの理由で足浴を拒否されることが多い。そこで、臥床したままでも安楽に足浴ができ、看護師にとっても準備や片付けが簡単にできる足浴器を作成したので報告する。

## II. 研究目的

患者が臥床したまま安楽に足浴ができ、看護師にとってもより使いやすい足浴器を作成する。

## III. 研究方法

- 1 病棟 10 階東の患者・看護師に、現在の足浴用具や方法の欠点について聞き取り調査を施行した。
- 聞き取り調査の結果をもとに、以下の点に留意し足浴器を作成した。
  - 1) 臥床したまま膝をできるだけ屈曲せずに足浴が施行できる。
  - 2) 膝下まで湯に浸けられる。
  - 3) 膝の裏面の触れる部分が痛くない。
  - 4) 足浴器が軽い。
  - 5) 足・足浴器を抱えず排水ができる。
- 足浴器の作成
  - 1) 材質：ポリプロピレン(発泡タイプ)
  - 2) 形：長さ 43cm、深さ 20cm、重さ 630g の形状のもので、排水用コックと排水用ホースを付けたものを作成した。
  - 3) 本体は 2 個 1 セットで使用し、木でできた固定台で本体を支える。
- 使用方法
  - 1) まず固定台を準備し、その上に本体を設置する。
  - 2) 患者の足を臥床状態に維持したまま片足ずつ足を入れる。
  - 3) 準備したお湯をふくらはぎまで注ぎ入れ、足浴する。
  - 4) 排水コックを開き、排水する。
  - 5) 排水コックを開けたまま、かけ湯をする。
- 1 病棟 10 階東の看護師 23 名に新しい足浴器を用いて足浴を施行した後、面接による聞き取り調査を施行した。

## IV. 結果・考察

1. 現在の足浴法による問題点

1 病棟 10 階の患者・看護師に、現在の足浴用具や方法の欠点について聞き取り調査を行った結果、次のような問題点があがった。

・患者側の問題点

- 1) 嘔気や倦怠感のある時、座位での足浴はしたくない。
- 2) 臥位で足浴を施行する場合、足浴が終了するまで膝を屈曲させたままの体位のため苦痛である。
- 3) 臥位で足浴を施行する場合、湯に足首までしか浸からないのでゆったりした気分にならない。
- 4) たらいを使用しているため、たらいの淵に下肢があたって痛い。

・看護者側の問題点

- 1) 準備・片付けの際、たらいを抱えるのは重く、きつい。

2. 新しい足浴器を使用後の調査結果

- 1) 臥床したまま膝をできるだけ屈曲せずに足浴が施行できるかについて

足浴器は足に沿った形で膝を軽く屈曲するだけで膝の裏面が支えとなり、全員があまり膝を屈曲せずに足浴が出来たと回答した。足浴器本体の長さ 43cm より膝下の短い人は安楽にできた(5人)と回答した。しかし、足浴器本体の長さ 43cm より膝下の長い人は、安定が悪かった(18人)と回答した。安楽にできたと回答した人は、足浴器の淵が膝の裏面にあたりしっかり固定できたからである。また、安定が悪かったと回答した人は、足浴器の長さが短いため下腿での支えとなり、安定が悪く、足先に力が入り安楽ではなかったと回答したと考える。このため、足浴器の長さは膝下と足底の長さを考慮した 60cm に改良することとした。

- 2) 膝下まで湯に浸けられるかについて

足先が浸からない(23人)、足浴器の淵(膝の裏面)から水漏れがあり安心してできない(23人)と回答した。これは設置角度が浅く、足先が浸かる前に膝裏から湯が漏れるため湯の量が充分でなく、足先を湯に浸けることができなかつたためと考える。そこで、膝下 43cm 以下の人で、膝の裏面に足浴器の固定がしっかりできた人を対象にし、足先が湯に浸かり、水漏れの無い角度を検討した。まず、角度 10 度に固定した場合、角度が浅く足先が湯に浸かる前に膝の裏面から湯が溢れた。次に、角度 20 度に固定した場合、足先まで湯に浸かり、水漏れも無かつた。また、水漏れを気にせず足浴ができた。さらに、30 度に固定した場合、足先まで湯に浸かるが、膝の裏面が持ち上げられすぎ臀部から大腿の苦痛が強かつた。このため、足浴器の角度は 20 度に固定できるように改良することとした。

- 3) 膝の裏面の触れる部分が痛くないかについて

足浴器の淵にスポンジを取り付けることにより、膝下 43cm の人は「スポンジ部分が膝の裏面にあたり痛くなかつた」と答えた。しかし、本体とスポンジの接着が悪く、荷重をかけるとはずれたことから、接着部分の強化が必要である。

- 4) 足浴器の重さについて

作成した足浴器本体は 630g、固定台は 720g であった。従来のたらいで足浴を行う方法では、まずたらいにお湯を汲み、それから患者のもとまで運び足浴を行っていた。その場合、たらいと湯を合わせた重さは 8kg 程度となる。このため、作成した足浴器は、たらいで足浴を施行する場合と比べて準備や片付けが簡単であった。

- 5) 足・足浴器を抱えず排水できるかについて

足浴器本体に、排水口・コック・ホースを取り付ける事により患者の足を動かさず排水ができた。これにより、重いたらいを抱えずに準備や片付けができ、看護者の負担も軽減することができた。

## 6) その他

足浴器本体の素材は、乾きやすく清潔に使用できたという意見があった。また、固定台の位置が悪く安定が悪かった(10人)、固定台をどの位置に設置したら良いか分かりにくい(6人)、という意見があったため、本体と固定台が一体化した足浴器に改良することとした。

以上の調査結果から得られた問題点を考慮し、足浴器本体の大きさは長さ60cm、深さ20cm。また、角度20度に足浴器本体と固定台を一体化させた足浴器を再度作成する予定である。

## V. おわりに

フローレンス・ナイチンゲールは、保清の目的は「皮膚の細孔が分泌物で塞がれてしまわないよう、たえず分泌物の除去」し、「体から有害物質をできるだけ速やかに取り除く」ことにあると力説している。清潔の援助の中には、皮膚、髪の毛、爪、粘膜の状態をアセスメントする機会となるとともに、患者の不安や痛みを軽減したり患者の健康感や幸福感を向上させると同時に、教育したり、意思を伝達したり、ケアの関係性を発展させる機会を提供してくれる。化学療法や幹細胞移植などの治療を受ける患者のために少しでも安楽で快適な看護を提供する為に、今後も用具の開発を行っていきたい。

## 参考文献

- 1) 庄野美香・李保順子・小浜弘子他：がん化学療法の倦怠感軽減における足浴の有効性：第32回日本看護学会論文集－成人看護Ⅱ－，141～143，2001.
- 2) キャサリンA. トレイシー：清潔の援助：ナーシングインターベンション看護診断にもとづく看護治療，25～32